

防衛力の在り方検討のための防衛会議（第5回）議事要旨

1 日 時：平成21年6月10日（水）1500～1558

2 場 所：第1省議室

3 出席者

議長：防衛大臣

委員：防衛副大臣、岸防衛大臣政務官、防衛事務次官、大臣官房長、防衛政策局長、運用企画局長、人事教育局長、経理装備局長、地方協力局長（代理）、統合幕僚長、陸上幕僚長、海上幕僚長、航空幕僚長、情報本部長

4 議事概要

(1) 防衛大臣の冒頭挨拶

第5回目会議である。今回の議題は「防衛力の役割及び自衛隊の将来体制の方向性」である。現大綱策定後の国内外の情勢変化が大きい中で、我が国の防衛力は如何なる役割を負うべきか、自衛隊をいかなる体制とするかについて、大局的な観点から検討する必要がある。本日の議論は、我が国の平和と安全を守り、かつ、アジア太平洋地域、さらには国際社会の平和と安定を守るにふさわしい将来の防衛力を創り上げ、その活動をさせていく上で重要な鍵になるものだと考えている。是非、今日も活発な議論であるよう、よろしく願いたい。

(2) 防衛政策局長からの説明

防衛政策局長より、防衛力の役割及び自衛隊の将来体制の方向性を議論する場合の論点について説明。

(3) 審議における主な論点

- サイバー対処能力について、自衛隊の通信システムが攻撃された場合のほか、我が国の他のインフラが攻撃された場合にも自衛隊が対応するのか、また、内閣官房と協力して政府全体としてどう対応するのかを整理しておくことが必要
- 自衛官の充足率は90%台であるが、防衛力に様々な役割が期待される中で、実員の不足をどう解消していくべきか
- 16大綱にある「本格的な侵略事態」という言葉の扱いについて、この言葉は、着上陸侵攻を引きずっている印象を与えているが、戦闘の様相の変化を踏まえ、今後議論が必要
- 警戒監視活動等の普段の活動量を高めることによるいわば動的な抑止力が重要。一方、防衛力の維持・整備による従来からの静的な抑止力の重要性も過小評価すべきでない
- 共同訓練への積極的な参加や、大規模災害への迅速な対処は、地域秩序の安定を支える重要な要素
- 統合運用能力の強化は今後更に重要に

(4) 防衛大臣の締めくくりの発言

- 今後も議論を深め、検討を進めていただきたい。

(以上)